

募集要綱の研究発表のテーマの番号とテーマ名を上欄に記入して下さい。

演 題 : 「立てる」を実現するために関わり続けたこと	
副 題 : ～ワンケアの可能性～	
種別・施設名 <small>ふりがな</small> 特別養護老人ホーム <small>りゅうそうえん</small> 竜爪園	
職 名 ・ 発表者名 <small>ふりがな</small>	ケアワーカー ・ <small>さいとう さき</small> 齋藤 紗希
	ケアワーカー ・ <small>たじま なるみ</small> 田島 成美
TEL (054) 265 - 3838 FAX (054) 265 - 1350	
E-mail : soudan02@love.or.jp http://www.love.or.jp/	
施設概要 当施設は従来型特養80床、ユニット型60床、短期入所20床、デイサービス、居宅介護支援事業所を併設し、地域包括支援センターを受託。天心会の精神である「誠意正心」の理念のもと、職員一人ひとりが胸に手を当てて恥ずかしくない行動を取り、利用者様、ご家族様、地域の方々にとって「竜爪園があって良かった」と思ってもらえる施設作りを目指し日々努力しています。	
<p>【取り組んだ課題】</p> <p>当施設では多職種と連携を図り、ワンケア・ワンギフト・ワンリハビリに力を入れています。今回は小脳梗塞となり様々なことに介助が必要となったA様に対し、機能維持・向上を目的に取り組みを行いました。(以下、ワンケアと記載)</p> <p>【具体的な取り組み】</p> <p>ほとんどの動作は自立で介助は立位時の軽介助のみのA様でしたが、突然の嘔吐やろれつが回らず、「苦しい」との発言から救急搬送され、医師により小脳梗塞と診断を受け、3週間入院をしました。退院後は全介助で意思疎通が難しい状態でした。日が経つにつれてできることが増加し、徐々に身体機能の回復が見られました。トイレ誘導の際、短い時間であれば手すりに掴まっての立位保持ができる日があり機能訓練指導員に相談しワンケアを開始しました。人工関節や膝変形の影響から左右の足の長さが違う為、靴を補高し立位の安定を図りました。また変化を指標する為立位時の写真を撮ると共に関節可動域や筋力の測定を行いながら取り組みを続けてきました。</p>	<p>【活動の成果と評価】</p> <p>ワンケアを行い、関節可動域や筋力等の数値の変化があり、表情だけでなくオウム返しだった会話が、今ではA様自身の意思を伝えられるようになりました。またA様との関わりを通し、職員のワンケアに対する意識の変化や知識、技術面での成長に繋げることが出来ました。様々な視点から良い結果となったことは、多職種との連携やA様と職員が一丸となり、取り組みを継続することが出来たからだと思います。</p> <p>【今後の課題】</p> <p>継続して行っていくことはA様と職員、双方のモチベーションの維持が鍵であり、維持していくことは難しいと感じました。複雑なものではなく、普段のケアの中にひとつ付け加えたり、簡単かつ短い時間の中でできることを模索し提案、A様の力を最大限生かせるよう、声掛け等工夫しながら今後も関わりを続けていきたいです。またワンケアを行うことは介助の負担軽減、利用者の保有能力の向上等の様々なメリットがあるため、今後も小さな気づきを大切にしていきたいです。</p>